

平成29年度入学試験問題（前期日程）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース

学校教育専攻

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、150分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

「授業論」に関する次の資料文を読んで、各問に答えなさい。

資料文A

非公開

非公開

(斎藤喜博, 『授業』, 国土社, 2006年, 27～30ページ, 抜粋・一部改変)

資料文B

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

(河合隼雄・谷川俊太郎, 『こころに届く授業 教える楽しみ 教わる喜び』, 小学館, 2002年, 39～56 ページ, 抜粋・一部改変)

問1 資料文Aの下線①「発見創造のある授業」のために、斎藤は何が必要であると主張しているか。筆者の主張を250字以上350字以内で要約しなさい。

問2 資料文Bの谷川の国語授業の中で、谷川が「いかに教えるか」について工夫している箇所を抜き出し、その個所がなぜ工夫と言えるのか250字以上350字以内で説明しなさい。

問3 資料文A、Bをふまえ、小学校の授業がどうあるべきか、あなた自身の考えを700字以上800字以内で述べなさい。

平成29年度入学試験問題（前期日程）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース

学校教育専攻

出題の意図

この小論文は、アドミッション・ポリシーに記すとおり、論理的な思考力および記述力をみることを目的とし、教育者・斎藤喜博の『授業』と臨床心理学者・河合隼雄と詩人・谷川俊太郎の『こころに届く授業 教える楽しみ 教わる喜び』からの出題となっている。

前書は、授業者としての実践を通して編まれた「授業論」を展開したもので、後書は朝日新聞社の企画「朝日親子教育セミナー」で、河合隼雄と谷川俊太郎が子どもたちにそれぞれ「授業」をおこなった記録である。

出題箇所は、資料文Aは「授業を支える強じんな精神」において、「発見創造のある授業」が如何に重要であるかを論じ、資料文Bは、谷川俊太郎の「国語授業」への思いが窺われる記録である。

いずれも「授業」とは何かを考える上で示唆に富む文章であり、こうした文章を正しく理解する読解力と、定められた字数制限のなかで要点を的確に説明する表現力を問うことが、設問の趣旨である。